

平成14年度着手全学テーマ別評価

国際的な連携及び交流活動

説明会

2003年1月・共立講堂

関連資料

- 平成14年度に着手する大学評価の内容・方法等について 大学評価実施大綱
- 自己評価実施要項
- 評価実施手引書
- 自己評価に関する Q & A (当日配付資料)
自己評価説明資料

序章 大学評価の実施方針

評価の目的 (p.1)

大学等の教育研究活動の改善に役立てる

社会にわかりやすく公表 *accountability*

社会の理解と支持

「p. 」は自己評価実施要項の該当ページを、「Q 」は自己評価に関するQ & Aの問を示している。

評価の基本的な方針 (p.1)

1 複数の評価手法による多面的な評価

(1) 3つの区分

全学テーマ・分野別教育・分野別研究

(2) 複数の項目別評価

(3) 自己評価書・根拠資料等・ヒアリング

2 目的及び目標に即した評価 (p.2)

(1) 各大学等の個性や特色を發揮

大学等の目的及び目標に即した評価

(2) 目的： 全体的な意図

目標： 目的を達成するための具体的課題

3 自己評価に基づく評価 (p.3)

教育研究活動の個性化や質的充実に向けた
大学等の主体的な取組を支援・促進するため
自己評価の重要性

4 意見の申立て

5 評価システムの改善

開放的で進化するシステム

評価の対象時期 (p.4)

- 大学等の現在の活動状況を評価対象
- 過去5年間の状況 自己評価時の状況
原則として
自己評価書提出後は対象時期としない
補足事項として記載可 *Cf.* Q9

評価の実施体制 (p.4)

- 大学評価委員会
- 「国際的な連携及び交流活動」専門委員会
- 評価チーム(専門委員会委員 + 評価員)

評価のプロセス (p.6)

- 平成14年12月： 評価内容・方法の決定
- 平成15年1～7月： 大学等の自己評価
- 平成15年4月： 目的及び目標に関する事前調査
- 平成15年8～平成16年1月： 機構による評価
- 平成15年11月頃： ヒアリング
- 平成16年2月： 意見申立て
- 平成16年3月： 評価結果の確定

評価の結果と公表 (p.7)

(1) 評価項目ごとの評価結果

目的及び目標の達成への貢献等の水準
特に優れた点・改善を要する点等の記述

(2) 印刷物及びウェブサイトによる公表

Cf. 参考資料「評価報告書イメージ」(p.43)

(3) 大学評価の全般的な概要や評価実施上の課題と対応(オーバービュー)



第1章 評価の対象と内容 (p.8)

第1章 評価の対象と内容 (p.8)

テーマの概要

教育面：学生の相互交流・異文化理解・
友好・人材育成

研究面：国際的共同研究・研究者交流

その他の国際協力活動

評価の対象となる活動 (p.9)

- 1 全学的(全機関的)な方針の下に行われている活動(国際連携・交流の側面から評価)
- 2 分野別教育評価・分野別研究評価と区別
- 3 前全学テーマ「教育サービス」・「研究連携」との区別

Cf. Q2 1-3

評価の内容 = 評価項目 (p.9)

1 実施体制

実施体制の整備・機能

改善システムの整備・機能

活動目標の周知・公表

2 活動の内容及び方法

活動の計画・内容

活動の方法

3 活動の実績及び効果

活動の実績

活動の効果

大学等の自己評価と 機構の評価結果

(p.10)

■ 大学等の自己評価

1 活動分類単位の項目別評価

目的・目標の整理

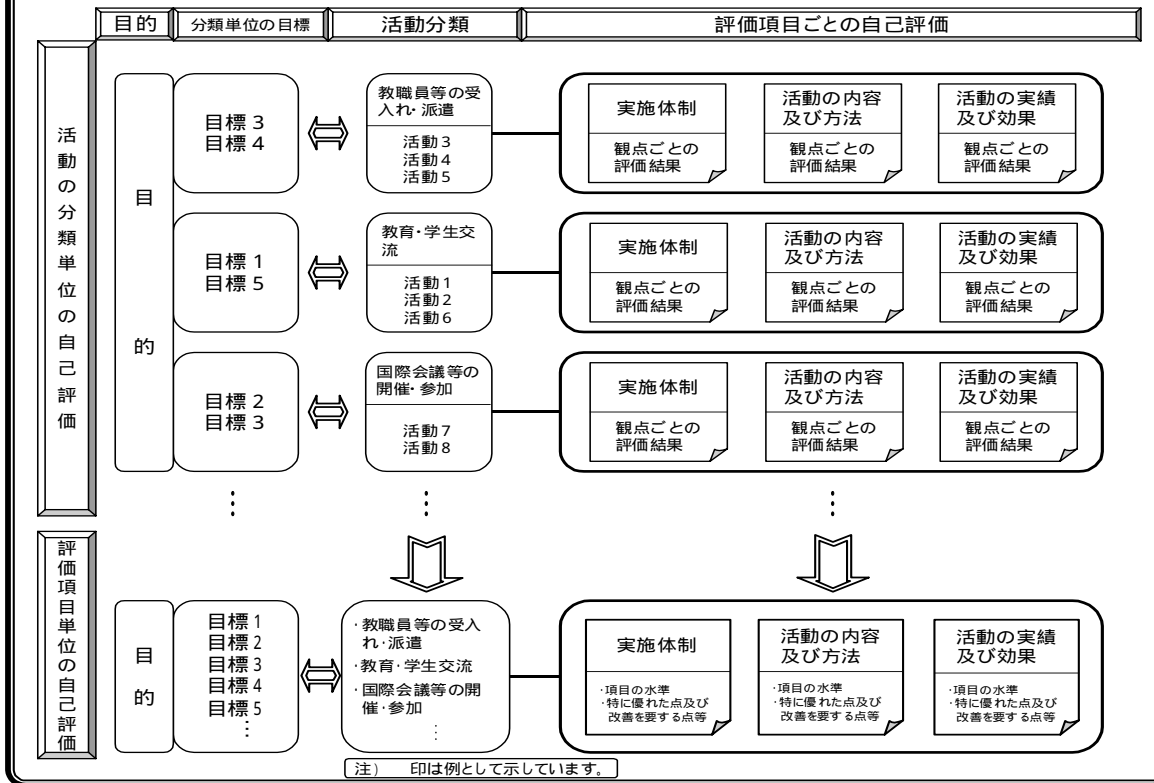
活動の分類と目標等との対応整理

分類単位の項目別自己評価

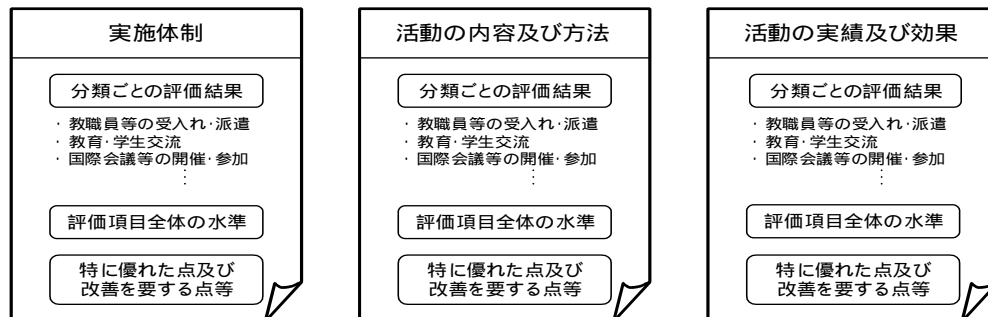
2 評価項目単位の項目別評価

■ 機構の評価...評価項目ごとにまとめる

大学等の自己評価のイメージ



機構の評価結果のイメージ





第2章 自己評価の方法 (p.11)

第2章 自己評価の方法

(p.11)

目的及び目標の整理

対象となる活動と目標の整理

事前調査

- A 活動分類単位の自己評価
- B 評価項目単位の自己評価

特記事項の整理

自己評価書

目的及び目標の整理 (p.12)

1 目的及び目標の整理の意義

大学等の「目的」及び「目標」に即した評価
大学等の個性や特色を發揮

「目的及び目標」 評価の基準

2 目的及び目標の整理に当たっての視点 (p.12)

「目的」

大学等の諸活動における
「国際連携活動」の位置づけ

「国際連携活動」の
基本的方針・基本的成果・
全体的な意図

2 目的及び目標の整理に当たっての視点 (p.12)

「目標」

個々の「国際連携活動」(個別活動)が
目指す成果・効果

「目的」を達成するための具体的課題

「国際連携活動」評価の直接的基準

2 目的及び目標の整理に当たっての視点 (p.12)

(1) 各大学等有している条件

大学等の設置の趣旨・歴史・伝統・
規模・資源(人的・物的)・地理的条件・
将来計画 等

(2) 各大学等への社会的要請

(3) 現在の諸活動の意図や趣旨

国際連携活動の目的・目標

Q2 目標は成果だけとするのか？

- 目標は成果 (output, outcome) 的なものとする
- その目標の達成のために必要な事項

観 点

Cf. 目標達成のためのロジックモデルの構成

評価対象の活動と目標の整理

(p.13)

■ 「国際連携活動」

多様な活動（「個別活動」）

多様な活動主体（「活動の実施主体」）

『活動の分類（「活動分類」）』

Cf. 表1 「活動の分類例及び個別活動例」

(p.14)

活動の分類例 (p.14)

- 教職員等の受入れ・派遣
- 教育・学生交流
- 国際会議等の開催・参加
- 国際共同研究の実施・参画
- 開発途上国等への国際協力
- その他(大学等の固有の諸活動など)

Cf. Q5-Q7

表1「活動の分類例及び個別活動例」(p.14)

教職員等の受入れ・派遣

- 外国人研究者の受入れ(研究者, 研究員, 受託研修員等)
- 外国人教員, 客員研究員等の任用
- 外国人研究者等に対する各種支援
- 教職員の派遣(在外研究員, 派遣研究員, 国際交流協定による教職員の派遣等)
- その他, 「教職員等の受入れ・派遣」に属する個別活動

教育・学生交流

- 海外の大学・機関等との教育交流活動
- 外国人留学生の受入れ(国費, 政府派遣, 私費, 国際交流協定による短期留学生等)
- 外国人留学生に対する各種支援
- 地域との連携を意図した外国人留学生交流支援
- 学生の海外留学(国費, 外国政府招へい, 国際交流協定による学生の海外留学等)
- 外国人留学生の交流ネットワークの構築(卒業後の外国人留学生含む。)
- その他, 「教育・学生交流」に属する個別活動

国際会議等の開催・参加

国際研究集会

国際交流協定による国際会議，シンポジウム

国際学術組織との交流によるセミナー，ワークショップ

その他，「国際会議等の開催・参加」に属する個別活動

国際共同研究の実施・参画

国際共同研究事業(各種団体等)

政府間協定に基づく国際共同研究

科学研究費補助金による国際共同研究

国際交流協定による国際共同研究

その他，「国際共同研究の実施・参画」に属する個別活動

開発途上国等への国際協力

国，地方自治体等が行う技術協力事業への参加

(プロジェクト支援，専門家派遣，技術研修等)

大学等独自の開発途上国等への国際教育協力

国際機関等との事業への参加及び共同実施

学生の国際協力活動参加への支援

その他，「開発途上国等への国際協力」に属する個別活動

IV 対象となる活動及び目標の分類整理表

活動の分類	ページ	「活動の分類」の概要	対象となる活動	対応する 目標の番号
教職員等の 受入れ・派遣 (1)	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(1). 〇〇〇〇〇〇	3, 4
	～	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(2). 〇〇〇〇〇〇〇〇	3
	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(3). 〇〇〇〇〇	3, 4
		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
教育・学生 交流 (2)	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(4). 〇〇〇〇〇〇	1
	～	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(5). 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	1
	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(6). 〇〇〇〇〇〇〇〇〇	1
		〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
国際会議等 の開催・参加 (3)	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(7). 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	2
	～	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	(8). 〇〇〇〇〇〇	2, 3
	〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		

事前調査ではページ数は不要 (Q3, Q5)

目的及び目標に関する事前調査

(p.15 , Q4)

- 自己評価書 「 対象機関の概要」
- 「 目的」
- 「 目標」
- 「 対象となる活動及び目標
の分類整理表」
- 目的及び目標の整理に当たって特記すべき事柄(様式自由) *Cf.* p.19、 p.46 ~ 48

平成15年4月15日(火)までに提出

自己評価の方法

- A 活動の分類単位の自己評価 (p.15)

1 自己評価のプロセス

- 活動分類の「目標」の確認
- 評価項目ごとに「評価観点」の整理
- 「観点」ごとに個別活動・取組等の自己評価
- 補足説明事項の整理 Cf. p.17

(根拠資料が十分に得られない等)

評価の階層構造

- 目的 : 基本的方針等
- 目標 : 「目的」を達成するための具体的課題
- 項目 : 「目標」に即して3項目
- 観点 : 「項目」を評価するための視点

p.37、38

- 着目点 : 「観点」を評価するための視点

p.37、38

2 評価の「観点」の設定 (p.15)

■ 観 点

目標に照らして評価を行う際に、
どのような面を見れば
評価項目で評価すべき取組等の状況が
判断できるかを示すもの

= 目標を達成するために
当該活動が基本的にもつべき要件
改善すべき点が浮き彫りにされるよう設定

観点例

(p.37、38 - 別紙3)

【実施体制】

実施体制の整備・機能
活動目標の周知・公表
改善システムの整備・機能

【活動の内容及び方法】

活動計画・内容
活動の方法

【活動の実績及び効果】

活動の実績
活動の効果

着目点の例 -1-

(p.37)

【実施体制】

観点1：実施体制の整備・機能

活動の実施組織の整備・組織間連携

実施組織の人的規模・バランス等

実施組織の役割・責任などの明示・

円滑な運営

その他

着目点の例 -2-

(p.37)

【実施体制】

観点2：活動目標の周知・公表

活動の担当者への目標・趣旨の周知

活動の受け手・学外活動関係者への

目標・趣旨の伝達

その他

着目点の例 -3-

(p.37)

【実施体制】

観点3：改善システムの整備・機能

活動の問題点等の把握のための
情報収集の実施

収集した情報を改善に結びつけるシステム
その他

着目点の例 -4-

(p.38)

【活動の内容及び方法】

観点1：活動計画・内容

活動計画の実行可能性等を踏まえた
明確な策定

活動内容の目標との整合性・
範囲の適切性・発展性 等

その他

着目点の例 -5-

(p.38)

【活動の内容及び方法】

観点2：活動の方法

目標達成に向けての活動方法の有効性

資金・環境的資源の獲得の

努力・工夫・経緯 等

活動方法の効率化(IT利用など)

その他

着目点の例 -6-

(p.38)

【活動の実績及び効果】

観点1：活動の実績 *output*

目標達成に即した活動実績

活動実績の年次変化の適切性

資金・環境・資源等投入資源に対する

効率性

その他

着目点の例 -7-

(p.38)

【活動の実績及び効果】

観点2：活動の効果 *outcome, impact*

活動の実施担当者・連携等の相手等の
得た成果・満足度(負担感なども含む)

社会的ニーズへの対応

「目的」の達成に向けての貢献

その他

観点例の利用に当たっての留意点

(p.37, Q8)

1 標準的な観点・着目点の例

すべてではない 必要に応じて設定可

2 根拠資料・データ

自己評価結果を裏付けられるもの

着目点の状況を具体的に把握可のもの

3 記載観点は機構の評価で利用

根拠資料・データ (p.26)

- 自己評価結果を裏付けられるように分析
(自己評価報告書などの冊子や素データ
そのものは原則として添付しない)
- 効果・満足度・効率性・有効性・
リーダーシップ・チームワーク 等
データ収集が難しいと思われる資料
報告書・インターネットなどで活動の
実施主体者のレポートなどを蓄積・公表 等

Q10 根拠データ

■ IR: *Institutional Research*

組織を特徴づける = 各機関独自の判断

■ 量的データ: 信頼性・妥当性

■ 質的データ: 信用性・明解性

ex. 公開・複数手法の利用 *triangulation*・

追跡(データ 解釈)可能・確認可能

根拠資料・データの示し方 (p.26,Q15)

- 根拠データは、必要最小限に精選
- 自己評価書に、自己評価結果や指摘点との関係が確認できる位置に記載・添付 (出典を明記)
- 補完資料等、本文が読みにくくなるような場合は機構に相談
- 原則としてA4の自己評価書の様式内に収める
- 機構の評価において、根拠資料等が不足と判断した場合 関係資料の追加提出を求めることがある

3 観点ごとの自己評価 (p.16)

- 着目点に関する状況を具体的に明示
根拠資料・データに基づく
- 観点の状況を目標に照らして判定
「優れている」「相応である」「問題がある」
活動の一層の充実を図る視点
- 原則として過去5年間の状況を分析

4 補足説明事項の整理 (p.17, Q11)

根拠資料・データ等の不足により十分な評価
が不能の場合 今後の対処の見通し 等

「優れている」「相応である」であるが、さらなる
改善を志す場合 その状況・見通し 等

観点例以外の観点をを用いた場合
観点例の一部を用いなかった場合

理由

- B 評価項目単位の自己評価

(p.17)

1 評価項目ごとの整理と水準の判断

- 活動分類単位の自己評価結果を
評価項目ごとに整理
- 評価項目の貢献等の程度(水準)の自己判定
- 水準の判断に当たっての考慮事項
活動分類・観点・着目点等の重みづけ 等

水準を分かりやすく示す記述法

(p.39-別紙4)

【実施体制】・【活動の内容及び方法】

- 目的及び目標の達成に
 - 十分に貢献している
 - おおむね貢献している
 - 相応に貢献している
 - ある程度貢献している
 - ほとんど貢献していない

水準を分かりやすく示す記述法

(p.39 - 別紙4)

【活動の実績及び効果】

- 目的及び目標で意図した活動の実績や効果が
 - 十分に拳がっている
 - おおむね拳がっている
 - 相応に拳がっている
 - ある程度拳がっている
 - ほとんど拳がっていない

Q12 水準の判定

- 活動×観点の積み上げは一つの目安

Cf. 木を見て森を見ず

- 「目的・目標」の達成のために
どう「改善」していけるかという視点

観点等への重みづけ (ロジックモデル)

- 観点・着目点等の諸要素の相互作用を加味して
系統的に判定 考慮事項の明示

2 特に優れた点及び改善を要する点等

(p.17、18)

■ 活動分類単位の観点ごとの自己評価結果

特に強調すべき点・重要な点の抽出

「特色ある取組」「特に優れた点」

「改善を要する点」「問題点」

特徴点

(p.18)

- 特色ある取組: 大学等の特徴的な取組
大学等の独特の資源活用 等
- 特に優れた点: 目的及び目標に照らして特に
優れていると判断できる点
原則として
観点評価「優れている」中から抽出

特徴点

(p.18)

- **改善を要する点: 工夫や努力により改善が図れると判断できる点**
 - 「問題がある」点から抽出
 - (補足事項に示す「改善の余地」とは別)
- **問題点: 直ちに具体的改善策が見出せないと判断される点**
 - (大学等の努力だけでは解決不能な点 等)

特記事項の整理 (p.18 , Q13)

- 自己評価を通じて明らかになった
国際連携に関する取組の
全学的な改革課題・将来構想等の展望
- 機構の評価の参考 = 評価とは別の位置づけ
- 原文のまま評価報告書に転載



第3章 自己評価書の作成 (p.19)

自己評価書の構成 (p.19)

§ 1 対象機関の目的・目標等

(原文のまま転載)

対象機関の概要

目的

目標

対象となる活動及び目標の分類整理表

(以上が、事前調査の提出部分)

自己評価書の構成 -2-

§ 2 自己評価結果

活動の分類単位の自己評価結果
評価項目単位の自己評価結果

§ 3 特記事項(原文のまま転載)

自己評価書の作成方法

(p.19 ~ 31 - 記述要領、
p.41・42 - 自己評価書イメージ)

§ 1 対象機関の目的・目標等

§ 3 特記事項

評価報告書(横25文字縦40行2段組9ポ)
の体裁で作成

§ 2 自己評価結果

横40文字1段組10.5ポの様式で作成
字数の制限(p.24, p.28, Q14)

III 目標

1 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○

2 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

3

|

.....

|

Ⅲ 目標

1 国際感覚を有する国際的に通用する人材を育成する二ーズに應えるために、教育面における国際連携・交流活動を促進する。(目的)

1-1 外国人留学生を全学部200名、全大学院50名以上を毎年受入れ、95%の卒業率を目標に教育すると共に、留学生が大学生活に満足できるよう支援を行う。

1-2 本学学生に対し、国際交流協定を結んでいる海外諸大学を中心に、短期留学生として一定期間留学することを促進し支援する。

1-3 「日本事情」などの留学生を対象とする授業や、その他の本学の行事の中で、外国人留学生と本学学生の交流機会を作り、また、テレビ会議システム等を利用して、海外の大学との交換授業を行うなど、異文化交流の機会を促進し支援する。

← 「目的」は「目標」の欄に特に書く必要はない。

← 目標の番号は、一つの目標が複数の目的に対応する場合も想定されるので、単独の通し番号などでもよい。

Ⅳ 対象となる活動及び目標の分類整理表

活動の分類	ページ	「活動の分類」の概要	対象となる活動	対応する目標の番号
教育・学生交流		国際的に通用する人材育成への内外の二ーズに対応するために行っている、学生に対する支援、国際交流を企図した教育機会の提供などの活動。例えば、外国人留学生に対する教育、本学学生に対する海外留学の促進、本学の授業や行事の中で、異文化交流機会を提供することなどが含まれる。	(1)外国人留学生の受入れ・支援	1-1
			(2)本学学生の海外留学支援	1-2
			(3)異文化交流機会の提供	1-3

§ 2 自己評価結果

I 活動の分類単位の自己評価結果

活動の分類： 教育・学生交流

評価項目：実施体制

観 点

実施体制の整備・機能

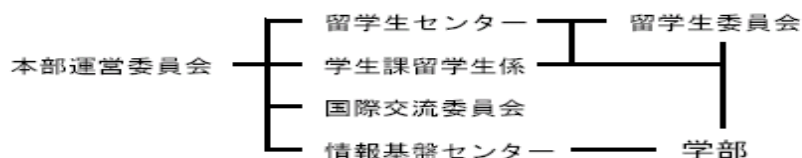
観点ごとの
自己評価

※「取組状況」、「判断結果の根拠・理由」、「判断結果」を必ず記載してください。

【状況概要】(1)外国人留学生の受入れ及び支援に関しては、学生課留学生係及び留学生センターが、その責任を負っている。留学生センターは、留学生の受入れ、日本語・日本文化関係のカリキュラム、学生の生活支援等の問題に関して、全学の教職員の代表者から成る留学生委員会を月に一度開催し、その議に従って、実務は留学生係を窓口にして遂行している。また、日本語、日本語文化に関する教育は、留学生センター教官が中心に推進している。(2)本学学生の海外留学支援に関しては、国際交流委員会の管轄による海外数大との国際交流協定(pxx表A参照)に基づいて、学生課留学生係を通じて、交換留学生制度の案内をし、応募学生に対してその手続き等の便宜を図っている。(3)本学学生を対象とした文化交流機会の提供は、留学生センターにおいて、外国人留学生と本学学生有志との合同討論会などを「日本事情」の授業の一環として行っているのをはじめとして、各学部において、海外の大学との授業交換が、情報基盤センターの支援によるテレビ会議システムを通じて、自主的に行われている。

【着目点に関する状況】
 <実施組織の整備・組織間連携>教育・学生交流に関する実施組織は、実務を担当する学生課留学生係、留学生センターを中心に、いくつかの部局の支援を得ながら適切に整えられている。留学生センター長及び学生課留学生専門職員が、全学運営委員会に出席し、全学の各部局との連携を随時図っている。<図1参照>

図1 教育・学生交流実施組織



<実施組織の人的規模・バランス>留学生センターの規模は、現在の留学生に対しては、教官x人/学生であり、十分なものであるが、それに対して、事務職員n人/学生であり、現在、増加中の留学生への対応を考慮すると改善の余地がある。留学生センターの委員会には、各部局から漏れなく教職員が参加しており、全学の状況が把握できるように配慮されている。 ※サンプルのため根拠資料・データは省略しています。

<実施組織の役割・責任の明確性>この実施体制は、平成14年度の留学生委員会報告書の総括では、委員の役割・責任が明確で、総じて積極的に活動に参画している。ただし、留学生に関する問題は多様であり、委員の負担感もないとは言えない状況になりつつあり、人員の充実、必要な役割分担の再編成などの工夫の余地があることも議論されているところである。

【判断結果の根拠・理由】現状の「目標」に関しては、以上の各着目点において実施体制は整備されており、機能しているが、外国人留学生、海外留学希望学生が増加しつつある中で、それに対応するのに十分な体制があるとは言えない部分も出てきており、一部に改善の余地が残されていると判断される。

【判断結果】「実施体制の整備・機能」の観点は、「相応である」と判断する。

観 点

目標の周知・公表

補足説明事項

1. 実施体制に関しては、現行の目標に関してはその達成に寄与してきたが、外国人留学生の数、留学希望学生の数などが増加しつつあり、目標そのものをより上位のものにするニーズが増大している。それに対応するために、実施体制を、拡大・整備することを現在検討中であり、その点で改善の余地があると言える。

.....

2.

Ⅱ 評価項目単位の自己評価結果

評価項目：実施体制

水準	目的及び目標の達成に相応に貢献している	
水準の判断に当たっての考慮事項	各活動分類ともに「実施体制の整備・機能」の観点は「優れている」あるいは「相応である」のレベルにあり、また、他の観点に比べて重要な観点でもあるので、「目的及び目標の達成におおむね貢献している」という判断も可能であるが、今後の一層の改善のためには、「活動目標の周知・公表」、「改善のためのシステム」の観点での問題点を意識的に取り上げることが本学においては意義があり、その重みを考慮して「相応に貢献している」の水準と判断した。	
特に優れた点及び改善を要する点等 ※1 各観点ごとの評価の中で、特に重要な点を記載してください。 ※2 「判断結果」、「根拠・理由」を必ず記載してください。	特色ある取組	テレビ会議システムを利用した海外の大学との授業交換を推進するために行っている、情報基盤センターと留学生センターの連携のあり方は、本学の資源の有効活用をした特色ある取組である。 ……
	特に優れた点	外国人留学生の支援と諸問題への対応のために、各学部からの教職員を委員とする留学生委員会を設置して、留学生のニーズに迅速に対応している点は特に優れている。 ……
	改善を要する点	本学学生の留学支援に関するモニター調査は十分に行われてきておらず、改善を要する。 ……
	問題点	外国人留学生の増加に対応して、学内宿泊施設が不十分な状況となってきている点は大局的な見地から検討を要する今後の問題点である。 ……

自己評価書の提出方法 (p.32)

- 締切:平成15年7月31日(木)
- 正本1部(片面印刷)
副本7部(両面印刷・表紙裏は白)
- +
- 電子媒体
- 分量範囲に注意

有意義な自己評価が進められることを
大学等が一層世界に開かれることを
祈りつつ...

了

ご清聴ありがとうございました